

学校図書館支援センター通信 NO.41 2月号

平成22年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

研究協力校の実践から学ぼう！

～第3回学校図書館研修会・ネットワーク会議～

1月25日（火）、市立各小中学校、特別支援学校の司書教諭、学校司書、学校図書館員が一堂に会し、「第3回学校図書館研修会・ネットワーク会議」が開催されました。今回は、文部科学省委託「学校図書館の有効な活用方法に関する調査研究」（平成21・22年度）の協力校である鶴指小学校と第七中学校の2校から、実践発表・提案がありました。それぞれの研究テーマに基づき、子どもたちに身に付けさせたい学力を明らかにし、全校体制での組織的な図書館活用の取り組みに、多くのことを学ぶことができました。

【実践発表①】「PISA型読解力の学び方を通して、豊かな学びを実現する子の育成」
発表者：鶴指小学校（高柳美紀子司書教諭、石黒美恵子学校図書館員）

【実践発表②】「学校図書館を活用し、指導する具体的方法の研究」
発表者：第七中学校（増田栄子司書教諭、出澤佳子学校図書館員）



協力校の実践発表

鶴指小学校では、「PISA型読解力」（複数のテキストを読み解き、その中で確かな根拠を本に、自分の考えを持ち、他の考えと比べながらそれを発信していく力）を子どもたちに身に付けさせるために、国語科を中心に調べ学習の進め方を研究しました。特に、課題設定の段階においては、「調べる見通しを持って課題を決めること」「課題は文で設定すること」「十分な時間をかけること」等がポイントであることが、具体的な事例をもとに提示されました。

また、情報カードの使い方や新聞記事の要約等の指導を通して、必要な情報を整理し活用することができるようになり、その結果、子どもたちが根拠に基づいて自分の考えをまとめられるようになってきていること等が報告されました。

第七中学校では、「学び方のプロセス」を全教職員で共通理解し、各教科・領域での学校図書館活用を進めました。夏の校内研修会で、講師の丸山光枝先生（日本女子大学非常勤講師）のご指導の下、教師自らが図書館を活用した調べ学習のワークショップを体験したり、「調べ学習ワークシート」をコンピュータ内のフォルダで共有したりすることで、図書館を活用した授業が多様な教科・領域に広がったことが報告されました。特に、「ミニ調べ学習」の進め方や図書資料が有効に活用できる教科単元が、多くの具体的な実践例を通して紹介されました。

また、研究成果として、平成22年度12月現在、学校図書館を活用した授業単元数は、国語、社会、理科、総合的な学習の時間において、計19単元に増えたことが報告されました。

両学校に共通しているのは、司書教諭、研究主任が中心となった全校体制での組織的な研究推進であり、継続的な取り組みです。ぜひ、参考にさせていただければと思います。

※ 本事業における調査研究の経過と成果については、協力校の実践を中心に、『研究紀要』並びに『学校図書館活用授業実践事例集3』にまとめ、来年度4月に、幼稚園、小・中学校、特別支援学校に配付する予定です。

路子の部屋 「調べる学習 達人への道（その4）」 「情報カード」で1分間交流をしよう！



調べる学習は、「常にグループ交流を取り入れながら授業を組み立てよう。」と提案してきました。しかし「情報カード」を作成する時は、むしろ1人調べ1人作業が必要です。この段階は、自分の興味関心に沿って、静かにじっくり考えながら必要な情報を抜き書きする作業をします。（授業時間は2時間程度）「情報カード」は1人で書きますが、ある程度の枚数ができあがったら、お互いに見せ合いながら、グループ交流の時間をとりましょう。できれば毎時間の終わりに簡単に交流しましょう。長く時間を取る必要はありません。私はこれを各自1分で伝えるように指示し、「1分間交流」などと名付けています。

<グループ交流で伝える内容>

- ・自分の考えたテーマ
- ・見つかった資料の「利用図書リスト」（できれば図書を見せ合いたい）
- ・書き抜いた「情報カード」
- ・できれば「わかったこと」を一言付け足せるとよい。

この交流によって、自分の調べたことの振り返りができ、不足していることがわかったり友達の調べ方が参考になったりします。また、このグループ活動は、お互いのテーマが違っていったほうが刺激になります。グループでテーマをそろえる必要はありません。

（本シリーズは、5回にわたって掲載します。）



図書館の窓から

～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～



妙典中図書館は職員室の前にあり、こじんまりしていますが、1万冊を超える本がぎっしりと詰まっています。この図書館に僅か20分間の昼休み、決まって訪れる妙典っ子たちがいます。本を借りるだけでなく、本に囲まれた空間に心を休めるように、好きな場所で好きな本を読むのです。私にとっても、この仕事に誇りを感じる心温まる時間です。本や環境など十分整っているが、現状では常時利用できないのが残念です。常に、図書館に人がいて、子どもたちに対応できれば、貴重な資料も十分に活用ができ、本の好きな子たちには、さらに、魅力的な場所になると思います。

（妙典中学校 学校図書館員 村上祐久子）

本に囲まれる妙典っ子達



新春！新年百人一首かるた大会

「ひさかたの～」 「ハイ！」

子どもたちの元気な声が響きます。1月30日（日）、新春恒例の「百人一首かるた大会」（主催：市川子どもの本の会）が開催されました。今年で28回を数える大会に、小中学生約160名が参加し、他校の子どもたちと一緒に、楽しく真剣に腕前を競い合いました。



～ふむふむ、わくわく、ほかほか図書館～

- ふむふむ … 学習に役立つ！
- ◎わくわく … おもしろい本がいっぱい！
- ほかほか … ゆったりと居心地がいい！



【新井小学校】

保護者読書ボランティア「どんぐり」さんが、朝の読み聞かせの時間に読んでくださった本が、絵と文で紹介されています。子どもたちが、いつも楽しそうに見ています。

『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。

市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4 TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.ed.jp/index.html>（※「市川市教育センター」で検索できます。）

